

平成24年度の事業報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人日本農林再生保全センター

1 事業の成果

地域で問題となっている放置竹林や耕作放棄地の整備・管理を行い、再生面積を拡大させることができた。また竹チップや竹パウダーを製造し、農業分野などでの使用事例が増加してきた。竹などの自然素材を積極的にイベントなどで使用する機会も増加させることができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (概算)(単 位:千円)
放置竹林拡大 防止の為の竹 林整備事業	「竹林再生隊」を結成し放置竹林に困っている農家から間伐・整備作業を受託するとともに人材育成にも取り組んだ。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 50人	(D) 一般市民 (E) 200人	500
伐採した竹を 活用した商品 の研究開発販 売事業	竹をチップ化して農業現場で有効活用する事業を行った。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 3人	(D) 農業者 (E) 5人	200
竹などの地域 資源を活用し たイベント事 業	地域で開催されるイベントに積極的に竹を利用してもらう仕組み作りを行った。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 5人	(D) 一般市民 (E) 200人	400
各地域資源を 活用した商品 の開発・販売 の助言援助活 動	山城地域の各団体と連携して特産品の販売等を行った。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 5人	(D) 一般市民 (E) 50人	100

耕作放棄地の拡大防止の為に農地整備及び啓発事業	「耕作放棄地再生プロジェクト」を立ち上げ耕作放棄地の整備を行った。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 5人	(D)一般市民 (E) 20人	100
再生した農地における有効活用方法の開発及び啓発事業	事業実績なし			
自然環境保全活動を通じての文化教育事業	昨年度に引き続き米の栽培プロジェクトを開催し、里山学習の場を作った。	(A) 4月～3月 (B) 京都府内 (C) 5人	(D)一般市民 (E) 50人	100

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。